



新北陸トンネル大桐工区は SEC 工法を採用する

SEC協会

# 新北陸トンネル視察 SEC工法の見識深める



SECコンクリート機械協会(伊藤祐二会長)は13日、福井県南条郡南越前町で建設中の北陸新幹線新北陸トンネル工事の見学会を行った。新北陸トンネルは全長約20kmの長大トンネルで、吹付けコ

ンクリートと、覆工に用いる注入用モルタルはSEC工法で練混ぜられる。会員各社から28名が参加した。

新北陸トンネルは鉄道建設・運輸施設整備支援機構の発注工事で、昨年5月から建設がスタートした。全長約20kmを6工区(清水、奥野々、大桐、葉原、田尻、樫曲)に分けて施工しており、奥野々、大桐、葉原の3工区では掘削工事が進む。

見学会では大桐工区の掘削現場を視察した。施工は熊谷・不動テトラ・梅林・轟の特定建設工事共同体が担当している。大桐工区は新北陸トンネルの中間地点に位置し、本坑の全長は3605m。トンネル工法はNATMを採用している。工期は2019年5月までの65か月で、約4万6千mの生コンが打設される見込み。工事は昨年11月に起工し、本坑につながる斜坑の掘削工事は完了した。現在は本坑の掘削工事に着手している。

現場事務所の高橋秀典所長、近藤祐二副所長が工事概要を説明。断層帯や貫入岩層があり、地質が目まぐるしく変わることや地層の亀裂内に蓄積された大量の湧水への対応を施工上の留意点に挙げた。その後、トンネル本坑の掘削現場を見学した。

施工現場までの車中では、SECコンクリートに関する研修会も行った。伊藤会長がSECコンクリートの特長である強度の向上やフリーディング・ひび割れ低減のメカニズムをコンクリートの微細構造に着目して説明したテクニカルポイントを解説し、SECコンクリートに関する見識を深めた。